

「敬老の日」ニュース報道分析 ～テレビは高齢者をどのように提示しているか？～

●はじめに

日本の65歳以上の高齢者人口は、「人口推計」（総務庁）によると1999年10月1日現在2119万人で、総人口（1億2669万人）に占める割合（＝高齢化率）は16.7%となっている。さらに、「日本の将来推計人口」（1998年1月推計、厚生省）によると、2015年には、高齢者人口は3188万人、高齢化率は25%を超え、国民の約4人に1人が高齢者という諸外国も経験したことのない本格的な高齢社会が到来するものと予測されている。

これから迎える高齢社会において、高齢者の姿は現実社会を見るうえで必要不可欠な要素となることは間違いない。そこで、メディアが提示する高齢者イメージを調査・分析することで、メディアが高齢者をどのように捉えているかを考えてみたいと思う。（参考資料：総務庁編 平成12年度（2000年度）版『高齢社会白書』）

●分析対象番組と分析方法

分析対象は2000年9月15日の「敬老の日」におけるNHKと民放4局（テレビ東京を除く）の夕方と夜のニュースで、番組名は以下の通りである。「敬老の日」は高齢者がニュース報道に普段以上に登場し、制作者の高齢者に対するイメージがより顕著に表れていると考えたため、この日を分析対象とした。ちなみに、この日はシドニーオリンピックの開会式とも重なり、開始時間が変則的であった。

・NHK

夕：「NHKニュース」（21:25～21:45）

夜：「ニュース10」（22:00～22:55）

・日本テレビ

夕：「ニュースプラス1」（17:30～18:57）

夜：「きょうの出来事」（0:00～0:22）

・TBS

夕：「ニュースの森」（17:54～18:57）

夜：「ニュース23」（23:30～0:33）

・フジテレビ

夕：「スーパーニュース」（17:00～18:56）

夜：「ニュースJAPAN」（23:50～0:56）

・テレビ朝日

夕：「スーパーJチャンネル」（17:00～18:57）

夜：「ニュースステーション」（22:30～23:41）

分析は、F C Tスタッフ4人が各局ごとに担当を決め、夕方と夜のニュースにおいて、番組の構成表の作成、「敬老の日」特集トピックの分析、高齢の登場人物の分析を行い、定期的に集まり話し合いを積み重ねるという形で進められた。その際、「登場人物が高齢（65歳以上）である」との判断は、次の3つの条件のいずれかにあてはまる場合とした。(1)テロップや音声などで年齢が紹介されている場合 (2)著名人など年齢がわかっている場合 (3)分析者4人全員が「高齢者である」と判断した場合。

●各局の数量的特色

各局（各番組）が「敬老の日」を意識したトピックを時間量でどの程度扱ったかをまとめたものが表-1である。この表から次のことがわかる。

日本テレビ、TBS、フジテレビの3局は、「敬老の日」であるが「敬老の日」特集トピックの総時間量が少なく、表の一番下の欄を見ると、番組全体に占める「敬老の日」特集の割合は時間量で2%にも満たず、特に、フジテレビ夜（「ニュース JAPAN」）には「敬老の日」特集トピックがひとつも見られない。また、誌面の都合で各番組の構成表は掲載できなかつたが、構成表を見ると多くのトピックが、番組の終了近くで取り上げられていることもこの3局に共通する。これら2点から、日本テレビ、TBS、フジテレビの3局は、「敬老の日」をそれほど重視していない番組構成であることがわかる。

それに対して、NHKとテレビ朝日は、番組全体に占める「敬老の日」特集の割合が時間量でNHK夕方5.0%、夜13.8%、テレビ朝日夕方15.7%、夜5.6%と、他局に比べて高い数値を示している。また、NHK夜「介護保険」（約7分30秒）、テレビ朝日夕方「有料施設」（16分）、テレビ朝日夜「老人ホームの水害」（4分）は、日本テレビ、TBS、フジテレビの「敬老の日」特集トピックとは対照的に、時間を割き独立した枠組みで取り上げている。特にNHKは、社会的関心事としての介護保険についてのトピックを扱っている。こうした点で、この2局は「敬老の日」を重視した番組構成であると言える。

表1 夕方のニュースおよび夜のニュースショー「敬老の日」特集トピック別時間量(2000. 9. 15)

トピック名	局名 番組	NHK		日本テレビ		TBS		フジテレビ		テレビ朝日	
		夕	夜	夕	夜	夕	夜	夕	夜	夕	夜
		総時間量	20分	55分	87分	22分	63分	63分	116分	68分	117分
ディズニーランドで60歳以上のダンスパーティー	千葉県			15秒	24秒	55秒	20秒			25秒	
とげ抜き地蔵で痴呆防止のダンベル体操	東京都	60秒								20秒	
高齢者人口の説明 テニスをする高齢者の映像	—									20秒	
介護保険制度によるサービス低下の現状	東京都		455秒								
高齢者のための有料施設	首都圏									960秒	
特別養護老人ホームの水害	愛知県										240秒
森総理の「敬老の日」	東京都									40秒	
蟹江ぎんさん 108歳	愛知県									40秒	
高齢者のサッカー大会	鹿児島県			24秒							
寿司屋が70歳以上の高齢者に無料サービス	東京都							10秒			
戦争で着られなかった結婚衣裳試着	福井県							30秒			
自分の遺影を撮影する高齢女性グループ	福岡県							30秒			
動物園の長寿カバ	石川東京			27秒			18秒				
全番組に占める「敬老の日」特集の割合	計	60秒	455秒	66秒	24秒	55秒	38秒	70秒	0秒	1105秒	240秒
	%	5.0%	13.8%	1.3%	1.8%	1.5%	1.0%	1.0%	0%	15.7%	5.6%

- ・夕方のニュース：①NHKニュース ②ニュースプラス1 ③ニュースの森
④スーパーニュース ⑤スーパーJチャンネル
- ・夜のニュースショー：Aニュース10 Bきょうの出来事 Cニュース23
DニュースJAPAN Eニュースステーション

●トピックの内容的特色

次に、表一1のトピックの内容を具体的に報告する。

・2局以上に共通しているトピック

2局以上で取り上げられているトピックとして、「ディズニーランドでダンスパーティー」「とげぬき地蔵でダンベル体操」「動物園の長寿カバ」がある。

「ダンスパーティー」は、日本テレビ夕方と夜、TBS夕方と夜、テレビ朝日夕方、の3局5番組で取り上げられ、15秒から55秒と短い。内容は、東京ディズニーランドで60歳以上のダンスパーティーが開催され、招待された150組の高齢者がソーシャルダンスを踊るというものである。TBS夕方には車椅子の高齢女性が登場し、日本テレビの両番組では高齢者よりもディズニーランドのキャラクターに重点が置かれている等、各番組で多少の違いは見られるが、テロップやナレーションで「元気」が強調され、ダンスをする高齢者を「元気」の象徴として捉えている点で共通している。

「ダンベル体操」は、NHK夕方とテレビ朝日夕方の2番組で取り上げられ、60秒と20秒でこれも短い。内容は、東京巣鴨のとげぬき地蔵境内で、整列した高齢者が痴呆防止と体力維持のために指導者の声に合わせてダンベル体操を行うというものである。

「動物園のカバ」は、日本テレビ夕方とTBS夜の2番組で取り上げられ、27秒と18秒でこれも短い。石川と東京で場所は異なるが、長寿のカバが子供たちにお祝いされながら、おからのケーキを食べるという設定は共通している。

・「明るい」高齢者

「明るい」印象のトピックとして、日本テレビ夕方の「高齢者のサッカー大会」、フジテレビ夕方の「寿司の無料サービス」「結婚衣装の試着」「遺影の撮影」、テレビ朝日夕方の「ぎんさん」「有料施設の紹介」があり、「有料施設の紹介」(16分)以外は10秒から40秒と短い。

「サッカー大会」は、鹿児島市で開催された42歳から78歳までの男性のサッカー大会の様子を伝えるものである。「ダンスパーティー」「ダンベル体操」のトピックとも共通するが、体を動かす(運動をする)高齢者を元気な高齢者として伝えている。

「寿司の無料サービス」「結婚衣装の試着」「遺影の撮影」は、ニュースフラッシュ風に高齢者の映像を日本各地(八王子、福井、福岡)から紹介する1分間のトピックである。タイトルが「まだまだ元気です!」とあるように、「元気」な高齢者を強調している。加えて、「結婚衣装の試着」「遺影の撮影」に登場する高齢者は女性のみで、「女性は外観を気にする」といったジェンダー・ステレオタイプがうかがえる。

「ぎんさん」は、「ダンスパーティー」「ダンベル体操」「高齢者人口の説明」「森総理」とともに、「元気なお年寄り!」というタイトルでニュースフラッシュ風のトピックのひとつとして取り上げられている。内容は、高齢者の代名詞とも言えるぎんさんの「敬老の日」の様子を追うものである。ナレーションで「こちらはぎんさん、大雨で自宅が水に浸かりましたが、元気に敬老の日を迎

えました」と言っているように、これも「元気」を強調している。

「高齢者のための有料施設」は、リタイア後に安く入れる老人ホームや賃貸住宅等を紹介する内容で、老後をいかに楽しく過ごすかがテーマとされ、登場する高齢者は明るく、楽しいイメージで提示されている。

・「介護される」高齢者

介護の対象として的高齢者を扱うトピックとしては、NHK夜の「介護保険制度によるサービス低下」とテレビ朝日夜の「特別養護老人ホームの水害」があり、7分30秒と4分で比較的長い。

「介護保険」は、痴呆症状のある98歳の母親を、肝臓病を患っている71歳の息子が面倒を見るという老々介護の内容であり、また、「老人ホームの水害」は、9月の東海豪雨で被害に遭った老人ホームの被害状況とそれによる生活への支障についてのレポートである。どちらも介護される対象、被害者、弱い存在といった高齢者像が提示されている。

●登場人物の特色

インタビューあるいはクローズ・アップされた高齢者（「高齢者」の判断は前述の通り）の人数を、番組ごと男女別にまとめたものが表—2である。Aは「敬老の日」特集トピック（表—1のトピック）に登場する高齢者の人数であり、BはA以外のトピックに登場する高齢者の人数である。この表から次のことがわかる。

一番下の合計の欄を見ると、Aは女性59人に対し男性30人で女性が男性のおよそ2倍の数であり、逆に、Bは女性11人に対し男性33人で男性が女性の3倍の数である。つまり、A（「敬老の日」特集トピック）には女性が多く登場し、B（「敬老の日」特集以外のトピック）には男性が多く登場する。Bのトピックは「敬老の日」特集以外のトピックで、政治的・経済的・社会的トピックが多く、より普段のニュース報道に近いと言える。こうしたトピックに登場する高齢者というとなりが多くなるのは、男性は高齢になっても社会的に活躍できる、つまり日本が男性中心社会であることを意味している。

また、表右端のBのトピック合計を見ると、テレビ朝日夜（「ニュースステーション」）の9人を除いて、その他の番組の高齢の登場人物の数は5人未満である。全登場人物数に対する高齢の登場人物数の割合を出していないため推定ではあるが、高齢者の登場回数が決して多いとは言えないのではないだろうか。

表-2 高齢者の登場集計表 (2000. 9. 15)

(単位：人)

局名	番組名	女性	男性	計
NHK	A	3	1	4
	B	0	1	1
	A	1	1	2
	B	2	3	5
日本テレビ	A	1	4	5
	B	0	5	5
	A	2	1	3
	B	1	2	3
TBS	A	2	1	3
	B	0	3	3
	A	4	3	7
	B	0	3	3
フジテレビ	A	7	2	9
	B	2	3	5
	A	-	-	-
	B	1	2	3
テレビ朝日	A	35	17	52
	B	3	2	5
	A	4	0	4
	B	2	7	9
計	A	35	30	89
	B	3	33	44

●まとめ

以上分析してきたことを踏まえて、「敬老の日」のニュース報道において高齢者像がどのように提示されているかをまとめてみる。

まず、「ディズニーランドのダンスパーティー」等、一つのトピックが複数の局で取り上げられ、同じように構成されていることから、制作者がもつ高齢者

像が乏しく、そのイメージも画一的なものでしかないことがわかる。

次に、「明るい高齢者像」と「介護される高齢者像」との単純な二極化が見られることが挙げられる。「明るい」高齢者のトピックでは、テロップやナレーションで「元気」が強調され、登場人物は、明るく、楽しく生きている存在として提示され、対照的に「介護される」高齢者のトピックでは、登場人物は弱く、元気がなく、世話をされる存在として提示されている。この2つの高齢者の提示を時間量で比較すると、「明るい」高齢者のトピックの方が多く、「敬老の日」を明るく、楽しく伝えようとする制作者の意図が伝わってくる。

また、「ごんさん」のトピックで顕著なように、高齢者を「かわいい」存在として扱っているトピックは見られるが、逆に、経験豊富で賢い高齢者や、威厳ある頑固な職人肌の高齢者など、「尊敬」あるいは「畏敬」の対象としての高齢者は見られない。「敬老の日」であるにもかかわらず「敬われる老人」が登場しない点に、制作者が「敬老の日」を単なる「老人を励ます日」として捉えていることがわかる。

さらに、社会において現役で活動をしている高齢者を紹介するトピックがないことも挙げられる。「敬老の日」特集トピックで取り上げられている話題は、趣味的、娯楽的な話題、または介護生活の話題であり、例えば、緒方貞子さん（前国連難民高等弁務官）のような社会的な仕事に現役で携わっている高齢者を紹介するトピックが欠落している。

登場人物に関して言えば、「敬老の日」特集トピックに女性が多く登場する点から、励ますべき「高齢者は女性」「社会的に活躍する高齢者は男性」という偏った男女観がうかがえる。

最後に、「敬老の日」特集トピックに家族や近隣、若者や子どもがほとんど登場しないことが挙げられる。画面に登場するのは高齢者ばかりで、家族の一員、地域の一員としての高齢者、異なる世代の人びと交流する高齢者は登場せず、「高齢者は高齢者だけ」といった制作者の高齢者に対する姿勢が伝わってくる。

全体的に見て、個としての高齢者、多様な高齢者像は提示されず、高齢者をひとつの集団としてひとくくりに捉らえている制作者のステレオタイプがうかがえる。

●おわりに

日本がこれから高齢社会に突入するにつれ、メディアに高齢者が登場する機会も増えてくるだろう。しかし、これまで見てきたように、ニュース報道に登場する高齢者は、「明るい」高齢者、「介護される」高齢者、「かわいい」高齢者など、多様な高齢者像の一部分が提示されているにすぎず、また、高齢者を高齢者だけの集団で取り上げたり、女性を多く取り上げたりなど、制作者の一定の価値観に基づいた高齢者イメージが提示されている。

こうしたステレオタイプに基づく高齢者像は、私たちが描く高齢者に対するイメージに少なからず影響を及ぼしていくのではないだろうか。こうしたステレオタイプを提示するメディアに対して、私たちにできることはやはり、

メディア・リテラシーの基本である「メディアをクリティカルに読む」ことであろう。そうすることで、メディアが提示するステレオタイプ、メディアが伝えていない情報に気づくことができる。実際、自分の周囲にいる高齢者を見ただけで、実に多種多様な高齢者がいることに気づく。そして、それら的高齢者とメディアによって提示される高齢者と比べてみるなら、メディアにないイメージ、どのような情報が欠落しているかを具体的に語るようになるのではないか。

また、メディアのステレオタイプから脱し、欠落している情報を補う手段のひとつとして、高齢者ひとりひとりが発言できる場が必要でもある。そのようなオルタナティブなメディアで自らを表現することによって、高齢社会の主要な構成員である高齢者が主体的に生きることができるのではないだろうか。

(まとめ、畠山亮太)

— 『fctGAZETTE』 No. 73 (2001年3月) 掲載 —